

<b>講義名</b>	オ)教育心理学【教職科目】			
<b>担当教員</b>	石上 浩美			
<b>開講期・曜日・時限</b>	前期 金曜日 4時限	<b>授業形態</b>	講義	
<b>履修開始年次</b>	2年生	<b>単位数</b>	2	<b>備考</b>

<b>主題と概要</b>
<p>教師・心理職を目指す人のための現場で役立つ教育心理学</p> <p>教育心理学とは、「教育現場に役立つための心理学的な知見とアプローチ」について考えるための学問である。それは、教員・心理職として、学校現場などに立った時に役立つ実践的な理論であるとともに、いつかどこかで子どもと関わり育む状況になった時にも活用可能なものであってほしいと考える。</p> <p>教育心理学が取り扱う主な内容は、発達・学習・人格・適応・評価である。この講義では、協同学習の理念と手法に基づいた問題解決型の学習展開を目指している。たとえは、「いじめのない学校」を作るためには、どのような指導ができそうなのか、具体的な解決方法を探求する。オンデマンド形式のため、予・復習を習慣化し、積極的に授業に参加することを期待している。</p>

<b>到達目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1)教育心理学に関する基礎的な用語を理解し、基礎知識を習得することができる。</li> <li>2)いじめ、不登校、体罰といった教育課題や教育時事的な問題、子育て・青少年支援などに対して興味・関心を持つことができる。</li> <li>3)オンデマンド講義形式に関する一連の予習・復習、課題提出など学習姿勢の習慣化ができる。</li> <li>4)自己の教員・心理職イメージを考え、自分の将来像を形成することができる。</li> </ol>
<b>提出課題</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1)オンデマンド課題（全11回）</li> <li>2)中間課題（第5回・第10回）</li> <li>3)期末到達度確認テスト（第15回）</li> </ol>

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
オンデマンド・中間課題については、適宜フィードバックを行う。

<b>評価の基準</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標準拠評価（絶対評価）</li> <li>・オンデマンド課題記述内容：30%</li> <li>・中間課題記述内容：20%</li> <li>・期末到達度確認テスト：50点</li> </ul> <p>合計100点満点 100～90点：A（A丸） 89～80点：A 79～70点：B 69～60点：C 59点以下：D</p>

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省の指導により、単位認定のためには全講義日数の1/3以上の課題提出が最低条件である。</li> <li>・オンデマンド講義のため、課題等の提出締め切りは厳守すること。</li> </ul>

<b>教科書</b>				
.教育心理学 保育・学校現場をよりよくするために	石上浩美・矢野正	嵯峨野書院	2150円+税	978-4-7823-0559-1

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「精選コンパクト心理学 - 教師になる人のために -」北尾倫彦、他（北大路書房）</li> <li>・「教育心理学の新しいかたち」鹿毛雅治（編）（誠信書房）</li> <li>・「初級心理学講座」教育心理学、河原博之（監修）鹿毛雅治（編）（朝倉書房）</li> <li>・「保育と言葉」石上浩美・矢野正（編著）（嵯峨野書院）</li> <li>・「保育実践に生かす障がい児の理解と支援」小川圭子・矢野正（編著）（嵯峨野書院）</li> <li>・「保育と表現」石上浩美（編著）（嵯峨野書院）</li> <li>・「教育原理」石上浩美（編著）（嵯峨野書院）</li> </ul>

<b>授業計画</b>
<p>第1回：第1回 イントロダクション 履修上の諸注意、評価方法・基準の説明</p> <p>第2回：教育心理学の成り立ちと課題、研究方法（実証科学としての心理学、学校教育における課題）</p> <p>第3回：発達とは（身体・言語・道徳性・社会性；ピアジェ、エリクソン、ヴィゴツキーなど）</p> <p>第4回：障がいを持つ生徒の理解と指導（盲・聾、知的障害、肢体不自由、LD、ADHD、高機能自閉症など広汎性発達障害などへの理解と合理的配慮）</p> <p>第5回：学習の意味と動機づけ（オベラント条件づけ、アンダーマイニング効果、観察学習）</p> <p>第6回：学習指導の方法（学習形態、個に応じた指導方法、ATI）</p> <p>第7回：学級集団で学ぶ（協同学習、LTD学習法）</p> <p>第8回：人格形成とは（人格の三層、パーソナリティの発達、対人関係形成の発達）</p> <p>第9回：適応と不適応（学校内臨床課題、心身の健康への理解と指導）</p> <p>第10回：生活指導・生徒指導・教育相談（生徒指導提要、キャリア発達・教育的支援）</p> <p>第11回：学校で活用できる心理アセスメント、測定法（知能検査、エゴグラム、YG性格検査、PFスタディ、描画法など）</p> <p>第12回：教育評価、授業評価（目標準拠評価・集団準拠評価、評価の時期と主体、評価と学習効果）</p> <p>第13回：これからの時代に求められる教員の養成・採用・研修とは</p> <p>第14回：子どもを取りまく現状と課題 いじめ・不登校・体罰・学校安全など</p> <p>第15回：子どもを取りまく現状と課題（ICT、SNSなどに対する情報リテラシーと倫理）</p> <p>第16回：教育心理学第1回から第14回のまとめ（期末到達度確認テスト）</p>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>								
<table border="1"> <tr> <td>ア：PBL（課題解決型学習）</td> <td>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</td> </tr> <tr> <td>ウ：ディスカッション、ディベート</td> <td>エ：グループワーク</td> </tr> <tr> <td>オ：プレゼンテーション</td> <td>カ：実習、フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）</td> <td></td> </tr> </table>	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク	キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）							
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク							
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク							
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）								

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回テキストの精読など予習指示およびオンデマンド課題がある</li> <li>・毎回講義内配布物のファイリング、ノート整理などの復習が望ましい</li> </ul>

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>
本学ディプロマポリシー基準に準拠

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>

<b>実務経験の有無及び活用</b>

<b>備考</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育時事や子ども・青少年をとりまく社会的環境についての興味・関心を持ち、積極的な参加姿勢を歓迎する。</li> <li>・授業時間外の質問などは <a href="mailto:Hiromi_Ishigani@red.unds.ac.jp">Hiromi_Ishigani@red.unds.ac.jp</a>にて対応する。</li> </ul>